

ホトトギス

牧師 山本 護

森の暗がりで見つけたホトトギス(山野草)を集会所横の半日陰に植えました。もう何年も前のことで忘れていましたが、いつのまにか幾株かに増え花を咲かせています。そういえば今年の初夏はホトトギス(野鳥)がよく鳴いていて、盛夏に入った今は姿を変えて地に咲いているイメージ。そこで駄句ひとつ。「天からの声地に咲いてホトトギス」。

「まことは地から萌えいで、正義は天から注がれます。主は必ず良いものをお与えになり、わたしたちの地は実りをもたらします。正義は御前を行き、主の進まれる道を備えます(詩編 85:12~14)」。私たちが恵みをいただいて生きる場は「地」。そこに「天」から正義が注がれます。逆から見れば悪である政治的・歴史的な正義ではありません。ただ天からいただくばかりの「主の義」です。「まことは地から萌えいで」いても、天からの正義が注がれなければ「地の実り」にはならないのです。



「正義は天から注がれます。主は必ず良いものをお与えになり、わたしたちの地は実りをもたらします」。天から地へまでは時間差があるとはいえ、地に起こっている戦争や飢餓はそれを待ってられません。悠長に俳句などひねっている場合ではないのです。神さま、頼みますよ、一刻も早く「天から正義」を注いで下さい。

八ヶ岳教会では、このところ市民運動『Fee Gaza 北杜』のために、頻りに集会所をお貸ししており、教会員も一人その活動に加わっています。教会としては要請があった時、必ず『アハリー・アラブ病院』に祈りと共に献金しています。ガザでは公立病院が破壊されたため、教会運営のアハリー・アラブが唯一の病院になってしまいました。

「天からの声地に咲いてホトトギス」。盛夏、天からの正義はもう地に注がれています。集会所横のホトトギスのように、やがてこの地に実りがもたらされるでしょう。そのために「正義は御前を行き、主の進まれる道を備える」。主が進まれる後に従うのではなく、主の前で正義の露払いをせよ、と。何をするのか思い浮かびませんが、十字架の言葉を聞いてハラを決めましょう。

「その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられた(コリ 1:20)」。だから天からの正義は必ず実現します。天のホトトギスから地のホトトギスくらいまでの時間差はあるにしても。Ω